

| | |
|--------|---|
| 団体名 | 早稲田大学考古学会 |
| 図書・雑誌名 | <p>『古代』</p> <p>第 146 号(2020 年 3 月刊行)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板垣 優河 「打製石斧の使用状況に関する事例検討—長野県北村遺跡と富山県桜町遺跡—」 ・鈴木 宏和 「縄紋回転技法からみた上川名式土器」 ・佐藤 亮太 「資料紹介：静岡県下開土遺跡出土の縄文時代前期の土器」 <p>第 145 号(2019 年 9 月刊行)</p> <p><土器の使用をめぐる考古学と民族学></p> <ul style="list-style-type: none"> ・坪田 弘子 「縄文時代中期前半における土器副葬—五領ヶ台・勝坂式土器分布圏での様相—」 ・久保田 慎二・宮田 佳樹・小林 正史・孫 国平・王 永磊・中村 慎一 <p>「河姆渡文化の副食調理土器—学際的手法によるアプローチ—」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢澤 健 「古代エジプトの供献土器に見られる精製と粗製—アブ・シール南丘陵遺跡の事例—」 ・高橋 寿光 「古代エジプト，新王国時代の青色彩文土器の再利用について」 ・中川 渚・フアン パブロ ビジャヌエバ・関 雄二・ダニエル モラーレス <p>「ペルー北部山地パコパンパ遺跡における饗宴—出土土器の分析から—」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小林 正史 「弥生時代から古墳前期への湯取り法炊飯の変化」 ・徳澤 啓一 「タイ東北部における水利環境の変化と水甕とその用途の変遷」 ・齋藤 正憲 「浅見五郎助になるということ」 <p>第 144 号(2019 年 5 月刊行)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御堂島 正 「黒曜岩製石器の着柄・保持痕跡—各種使用方法による実験痕跡研究—」 ・板垣 優河 「打製石斧の機能分析—石器の装着法と掘削対象土を中心に—」 |

| | |
|-----|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・佐久間 正明 「5世紀における土師器の並行関係について—東西における器種組成の共通性を中心に—」 ・小畑 弘己・佐々木 由香・櫛原 功一・真邊 彩・新田 栄治・川島 秀義・中村 直子 「種実・昆虫圧痕はなぜできるのか（その一）—タイ・ラオスの土器作り村における土器作り環境調査報告—」 ・柳澤 清一 「「トビニタイ土器群」編年の諸問題 その(3)—「忘失」されたモヨロ貝塚編年と「貝塚トレンチ」未発表資料の検討—」 <p>『溯航』 第38号（2020年2月刊行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川部 栞里「鶉ガ島台土器の研究」 ・田邊 凌基「古墳時代後期の小札甲にみる地域性—滅孔2列5孔型小札の導入の様相—」 ・岡本 樹「関東地方における完形製塩土器の意義」 ・呉 心怡、辻角 桃子、高橋 亘、高橋 洋太郎、戸塚 瞬翼、松本 龍「龍角寺104号墳横穴石室の3次元計測調査」 |
| 連絡先 | <p>早稲田大学考古学会事務局 Tel : 03-5285-3646 E-mail : office.wasedakouko@gmail.com</p> |
| 附記 | <p>全バックナンバーは学会 HP をご覧ください。 http://www.waseda.jp/assoc-arc/</p> |